

大久保 紗也 個展『Box of moonlight』開催のご案内

展覧会名：大久保 紗也『Box of moonlight』

会期：2022年11月26日（土）- 12月25日（日）

オープニングレセプション：11月26日（土）18:00-20:00 *作家が在廊します

開廊時間：12:00-19:00（日曜-17:00）

定休日：月・火・祝日

会場：WAITINGROOM（〒112-0005 東京都文京区水道2-14-2 長島ビル1F）

WAITINGROOM（東京）では、2022年11月26日（土）から12月25日（日）まで、大久保紗也の、当ギャラリーでは2年ぶり3回目となる個展『Box of moonlight』を開催いたします。大久保は、輪郭線として表現される記号的なイメージと、物質感を伴う抽象的な像のうねりという、二つの分離した要素を共存させた絵画作品を主に制作しています。本展では、大久保が初めて取り組んだ立体作品の新シリーズを初公開いたします。石塑粘土で細部まで具象的に造形された人型のオブジェの上に、磨りガラスのように曇ったアクリルボックスを被せ、大久保の絵画作品に特徴的な、輪郭線の揺らぎやモチーフの混ざり、それらの視認の曖昧さといった要素を、新たな素材を用いて表現した新シリーズとなります。加えて、これまで大久保が支持体として用いてきた波形のトタン板が、さらに屋根状に折れた素材を支持体とする、より立体感を増した新作の絵画作品も発表いたします。



“Two Sorrows”（部分）, 2022,

石塑粘土、アクリルペイント、LEDライト、アクリルボックス、スチール, H356×W310×D310mm

作家・大久保紗也について

1992年福岡県生まれ、2017年に京都造形芸術大学大学院・芸術専攻ペインティング領域を修了。現在は京都を拠点に活動中。近年の展覧会として、2022年個展『The mirror crack'd from side to side』（六本木ヒルズA/Dギャラリー／東京）、個展『We are defenseless. / We are aggressive.（無防備なわたしたち/攻撃的なわたしたち）』（三越コンテンポラリーギャラリー／東京）、2020年個展『They』（WAITINGROOM／東京）、2019年グループ展『大鬼の住む島』（WAITINGROOM／東京）、2018年個展『a doubtful reply』（WAITINGROOM／東京）、2017年グループ展『美大生展2017』（SEZON ART GALLERY／東京）、2016年グループ展『movement 2016 - 1st movement -』（ARTZONE／京都）、2015年グループ展『HERE I AM KUAD x TUNA交流展』（Na pai Art Gallery／台湾）などが挙げられます。2017年秋に参加した公募グループ展『第4回CAF賞入賞作品展』（代官山ヒルサイドフォーラム／東京）で白石正美賞を受賞。以降、若手ながらその作品は常に注目を集め続けています。

アーティスト・ステートメント

ヒトラーがまだ只の少年だった頃、
日本とドイツ、月下で男女が語らい合っている
ひとつは告白された罪を赦し、
ひとつは赦しを請うものを仮借なく非難した
世界が大戦へと歩みを進めていた時、
二つの月夜で語られた非対称の赦しは
現代の私を照らしおぼろげな輪郭を作っている

今回の作品にてモチーフとしたのは、二つの物語で語られた「赦し」について。

ひとつは、リヒャルト・デーメルが1896年に刊行した『女と世界』に収められている「浄められた夜」。

もうひとつは、デーメルの『女と世界』が刊行された翌年、1897年から読売新聞で連載された尾崎紅葉の『金色夜叉』。

どちらの作品も月の光の下で、男女が罪と赦しの話をするシーンがあり、

一方は罪を赦され、もう一方は拒絶されます。

しかし物語が書かれた背景までも射程に入れるとき、その罪と赦しの関係はやや変容していく。

太陽からの光によって存在を確認できる月、そしてその月の光の中でかろうじて認知できる輪郭を探り、変容する罪と赦しの形の表しを小さな箱の中で試みたのが「Box of moonlight」です。

大久保紗也



"They", 2022

acrylic, and oil on corrugated plastics sheeting, H1237×W942mm

様々なレイヤーが分離しながら混ざりあいながら存在する人間の「どうしようもなさ」

様々なポーズをとる人間の姿や人体のパーツを表すドローイングの線、その間に見える色や抽象的な模様、トタン板の立体感やその間に挟まった油絵具のかたまりなど、大久保紗也の作品は、いくつもの要素が重なり合いながら厚みをもって存在しています。それらは、鑑賞する側が注目したい場所により、時に混ざり合い、時に別々に見えてきます。

本展で発表される新作の制作にあたり、大久保は二つの物語からモチーフをとっています。リヒャルト・デーメルの『浄められた夜』では、月光の下で林を歩く男に、女が行きずりの男との子供を身ごもっていることを告白しますが、男は女を赦します。この詩を書いた時、デーメルは妻子がありながら妊婦の女性と不倫関係にあったため、月光の下で救済を求めるのは他ならぬデーメル自身であるとも言えます。同時期に書かれた尾崎紅葉の『金色夜叉』でも、月夜に女が男に赦しを請うシーンがありますが、男はこれを拒絶し、女は自らの行いを後悔し続けます。この物語の翻案であるバーサ・M・クレー（シャーロット・メアリー・ブライム）の小説『Weaker than a Woman (女より弱きもの)』ではヒロインは堂々とした女性として描かれており、『金色夜叉』の女性は「明治の夫人の権化」であることがわかります。

「『真実』や『正確さ』とは常に受け取った個々の中で変容していくものです」と大久保が言うように、人間の姿を表す輪郭線は手癖や思い込みの上で引かれており、それらを崩すような抽象的な要素は、個々にも、同時に捉えることが可能です。立体と平面、具象と抽象の間を行き来しながら、それらが混ざり合って一つの作品の中に凝固して存在する。齟齬や間違いを引き起こす人間の「どうしようもなさ」と向き合いながら、立体作品という新たな表現に挑んだ大久保の新作群に、ぜひご期待ください。

大久保 紗也 (おおくぼ・さや)

1992 福岡生まれ
現在、京都を拠点に活動中

学歴

2017 京都造形芸術大学大学院芸術専攻ペインティング領域 修了

2015 京都造形芸術大学美術工芸学科油画コース 卒業

個展

2022

The mirror crack'd from side to side - 六本木ヒルズA/Dギャラリー (東京)

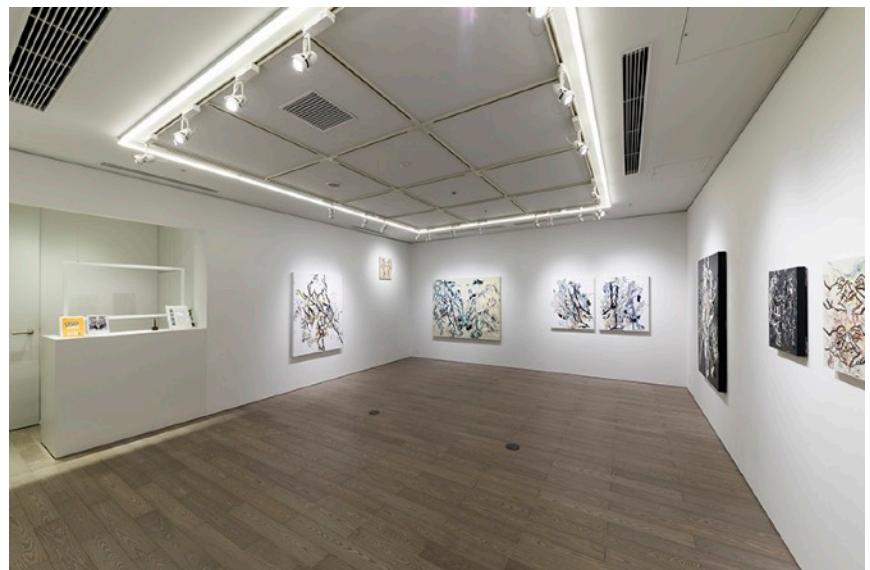
We are defenseless. / We are aggressive (無防備なわたしたち/攻撃的なわたしたち) - 日本橋三越本店 三越コンテンポラリーギャラリー (東京)

2020

They – WAITINGROOM (東京)

2018

a doubtful reply – WAITINGROOM (東京)



グループ展

2022

SPRING SHOW - WAITINGROOM (東京)

2021

ビューイング展 – WAITINGROOM (東京)

2020

10TH - WAITINGROOM (東京)

ビューイング展 – WAITINGROOM (東京)

2019

大鬼の住む島 – WAITINGROOM (東京)

2017

NEWSPACE – WAITINGROOM (東京)

第4回CAF賞入賞作品展 – 代官山ヒルサイドフォーラム (東京)

美大生展2017 - SEZON ART GALLERY (東京)

京都造形芸術大学大学院 修了展 - Galerie Aube (京都)

2016

movement 2016 [1st movement] - ARTZONE (京都)

SPERT 2016 - Galerie Aube (京都)

2015

HERE I AM KUAD × TUNA交流展 - Na pai Art Gallery (台北・台湾)

アワード

2017年 第4回CAF賞 白石正美賞

2022年 個展『The mirror crack'd from side to side』

会場風景 (六本木ヒルズA/Dギャラリー、東京)

photo by Shintaro Yamanaka (Qsyum!)

掲載記事

[インタビュー] 「Artists #26 大久保紗也」、公益財団法人 現代芸術振興財団、2022年2月21日、https://gendai-art.org/news_single/artists_sayaokubo/

「今月の展覧会ガイド 2021.12.25-2022.1.24」p.111、『月刊アートコレクターズ』No.154、2022年1月号、生活の友社 Sam Gaskin 「Ocula conversation | Art Collaboration Kyoto Transports the Art World to Japan」、Ocula Magazine、2021年11月2日、<https://ocula.com/magazine/conversations/art-collaboration-kyoto-brings-art-world-to-japan/>

「音楽と美術」p.39、『月刊アートコレクターズ』No.147、2021年6月号、生活の友社

「これでわかった！ 抽象絵画の世界」p.51、『月刊アートコレクターズ』No.144、2021年3月号、生活の友社

「2020年私はこれを買いました！」p.10、「完売作家全データ2021」p.36、『月刊アートコレクターズ』No.143、2021年2月号、生活の友社

「コレクション拝見 Vol.76・有田啓さん - 継続することの困難さに挑む、はじまりのコレクション」、『月刊アートコレクターズ』No.142、2021年1月号、p.92-93、生活の友社

丸橋茂幸「現代アートが拓く新たな古都」、産経新聞、2020年12月26日、p.11

工藤キキ「kiki's ART TRIPPER」、『NYLON JAPAN』、2019年11月号、カエルム

「現代ビジネスマンの嗜み!? アートコレクターの事始め」、『AERA STYLE MAGAZINE』No.42、2019年春号、p.148、朝日新聞出版

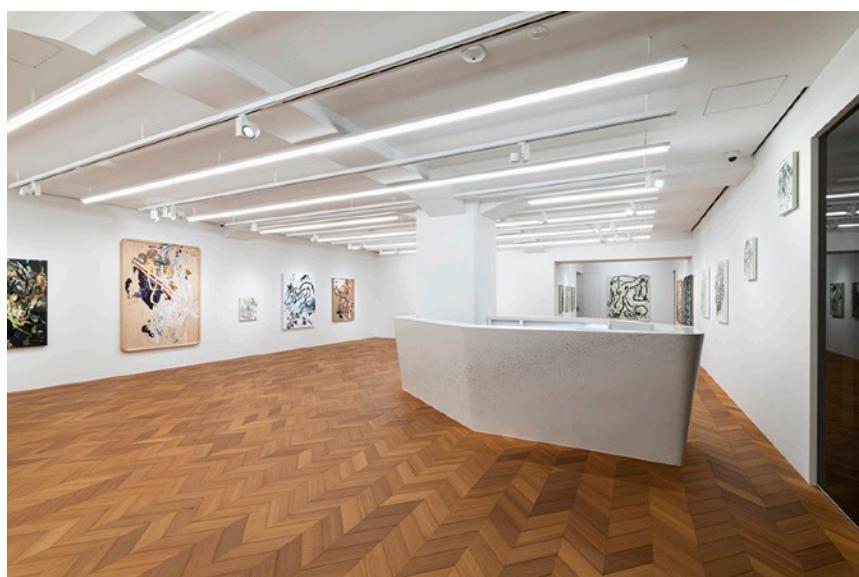
「完売作家全データ2019」、『月刊アートコレクターズ』No.120、2019年3月号、p.52、生活の友社

「世界のエグゼクティブ、そのアート事情。」、『GOETHE』2019年1月号、p.81、幻冬舎

深野一朗「同世代の作家はライバル。「外向的」アート・コレクター小松準也さんの当事者目線とは。」、ミューゼオ・スクエア、2018年11月、<https://muuseo.com/square/articles/942>

アーティストウェブサイト

<https://sayaokubo.com>



2022年個展『We are defenseless. / We are aggressive
(無防備なわたしたち/攻撃的なわたしたち)』

会場風景（日本橋三越本店 三越コンテンポラリーギャラリー、東京）
photo by Shintaro Yamanaka (Qsyum!)

※本展に関するお問い合わせは、下記連絡先までお願ひいたします。

WAITINGROOM（代表：芦川朋子）

住所：〒112-0005 東京都文京区水道2-14-2 長島ビル 1F

営業時間：水木金土 12-19時・日 12-17時

定休日：月火祝

Tel : 03-6304-1877 Eメール : info@waitingroom.jp

Web : <http://waitingroom.jp>